

平成 27 年度 福島大学大学院人間発達文化研究科 (2 次募集) 入試問題

専攻 (領域) 名	教職教育 (学校教育) 【教育心理学】	科目名	教育心理学
-----------	---------------------	-----	-------

受験番号	
------	--

- I 以下の用語群の中から 3 つを選択して、それぞれ簡潔に説明しなさい。
解答は解答用紙 I に選択した用語を明示した上で記述すること。

用語群

知覚の恒常性, 長期記憶, 展望的記憶, 言語相対性仮説
内発的動機付け, 性格のビッグ・ファイブ理論, 愛着,
自己意識, 囚人のジレンマ, ラポード, 来談者中心療法
中央値, 分散分析, 回帰分析,

平成 27 年度 福島大学大学院人間発達文化研究科 (2 次募集) 入試問題

専攻 (領域) 名	教職教育 (学校教育) 【教育心理学】	科目名	教育心理学	受験番号	
-----------	---------------------	-----	-------	------	--

II 以下の論文を読み、問いに答えなさい。
解答は解答用紙 II に、解答番号を記した上で記述すること。

- ①「方法」の「手続き」下線部について、実験者は子どもの被験者にどのような質問をしたと考えられるか？具体的な質問の例を挙げなさい。
- ②表 2 について、応答傾向は年齢に応じてどのように変化しているか？答えなさい。
- ③②のような結果が生じる理由について、考察しなさい。
- ④表 2 における「機械じかけのモンキー」の応答について、年齢による違いを統計的に明らかにしたい。統計的解析方法について述べなさい。

出典：実験で学ぶ発達心理学 杉村伸一郎・坂田陽子 編 ナカニシヤ出版 2004 (原典中の誤字は訂正してある)
実験研究の出典：Garey, S., 1985 The biological concept of animal (in Conceptual change in childhood, Chapter 3, 77-102. Cambridge, MA: MIT Press)

動物の生物学的概念

本研究では、動物特性を備えた生物学的定義に照らして正確な動物カテゴリを、年少児が認識しているかについて調べる。先行研究 (Dolgin & Behrend, 1984) は、3・4 歳の年少児が、成長や睡眠のような動物特性を、人間から昆虫にいたるまで同じように付与するわけではないことを明らかにしている。しかし彼らの研究のみでは、動物カテゴリとは、死・生殖・性・消化・循環・呼吸などの身体内活動といった特性により定義され、ゆえに無生物カテゴリとは異なるという認識が年少児に欠けているのかについては明らかではない。この点について明らかにするために、本研究では、上記動物特性が、生物・無生物にそれぞれ付与できるかについて問う実験を二つ行った。実験 1 では動物特性を付与する対象として、幼児にとりなじみの薄い対象、実験 2 ではなじみの薄い対象条件と、なじみ深い対象の条件を設定した。

方 法

被験者 実験 1 では 4・5・7 歳・成人各 9 名を対象とした。実験 2 ではなじみの薄い動物条件では、4・10 歳・成人各 10 名、なじみ深い動物条件では 4・7・10 歳・成人各 10 名を対象とした。

材料 動物特性の付与対象として、実験 1 では動物 6 種、植物 2 種、無生物を 4 種選んだ (表 1

参照)。実験 2 では、なじみの深い対象、なじみの薄い対象条件ともに、動物 5 種、植物 2 種、無生物 6 種選んだ (なじみの深い対象条件については表 2 参照。なじみの薄い対象条件では、動物と植物は実験 1 と同じだが、無生物対象には機械じかけのモンキーが加えられた)。動物特性として、“食べる”・“眠る”など 6 種の属性を選択した (表 2 参照)。

手続き こどもに対しては個別に実験を行った。対象の絵をランダムな順序で 1 枚ずつ提示し、それぞれ 6 種の属性が備わっているか尋ねた。成人被験者には冊子を配布し、集団的に質問を行った。

結果と考察

実験 1 において、対象に動物特性を付与した割合を表 1 に示す。

平成 27 年度 福島大学大学院人間発達文化研究科 (2 次募集) 入試問題

専攻 (領域) 名	教職教育 (学校教育) 【教育心理学】	科目名	教育心理学	受験番号
-----------	---------------------	-----	-------	------

表 1 各対象へ動物特性を付与した割合 (%) ²⁾

年齢	特性	動物					植物			無生物			
		人間	アフリカ 鳥	ドードー ムシ	ヘリカ ムシ	シュモク ザメ	ミミズ	菌	バオバブ	雲	火山	刈取機	ニンニク 漬し
4歳	呼吸する	100	78	67	33	89	0	0	0	0	0	0	0
	眠る	100	100	78	67	44	0	0	0	0	0	0	0
	怪我をする	100	67	67	56	56	22	22	11			11	
	心臓がある	100	89	56	56	44	0	11	0	0	0	0	0
	食べる	100	78	89	78	67	0	11	0	0	0	0	0
	平均	100	82	71	58	60	4	9	2	0	3	0	0
5歳	呼吸する	100	89	89	78	78	44	0	0	0	0	0	0
	眠る	89	100	89	89	67	33	11	11	11	11	0	0
	心臓がある	100	67	56	78	78	33	0	0	0	0	0	0
	考える	100	56	67	56	44	22			0		0	0
	食べる				(100)*		(89)*						
	平均	97	78	75	75	67	33	4	4	3	4	0	0
7歳	呼吸する	100	100	100	100	89	78	22	22	0	0	0	0
	眠る	100	100	100	100	78	78	78	1	0	0	0	0
	心臓がある	100	89	89	89	78	56	0	0	0	0	0	0
	考える	100	89	78	56	44	22			0	0		0
	食べる				(100)*		(89)*						
	平均	100	94	92	86	75	64	33	11	0	0	0	0
大人	呼吸する	100	100	100	100	89	89	100	100		56		
	眠る	100	100	100	100	89	100	56	11	11		0	
	怪我をする	100	100	89	100	89	89	44	44				0
	心臓がある	100	100	89	89	100	56	0			0		
	考える	100	89	89	67	67	44	0				0	
	食べる	100	100	89	100	100	100	56	56	0	0	0	0
平均	100	98	93	93	89	80	43	53	6	23	0	0	

注) * 5 および 7 歳児では“食べる”は二つの対象についてのみ調べたにすぎないので、除外した。

表 2 動物特性を付与した割合 (%) (実験 2, なじみのあるシリーズ)

年齢	特性	動物				植物		無生物						
		ヒト	イヌ	サカナ	チョウ	ムシ	花	木	太陽	雲	自動車	ハンマー	テーブル	ぬいぐるみ のペンキ
4歳	食べる	100	90	90	40	80	20						0	50
	眠る	100	90	70	50	90		20	20		0	10		70
	骨がある	80	80	60	30	40	10			0			10	40
	心臓がある	90	60	60	30	40		20	20			0		50
	子を産む	100	60	50	60	60	20	30	10	30	10	10	20	50
	考える	90	60	20	10	60		20		10	0	0		50
	平均	93	73	58	37	62	17	23	17	13	3	7	10	52
5歳	食べる	100	100	100	100	100	50						0	50
	眠る	100	100	90	90	90		0	10		10	10		0
	骨がある	100	100	90	60	40	0			0			0	10
	心臓がある	100	80	90	80	70		0	10			10		0
	子を産む	100	100	90	90	80	10	10	0	0	0	10	0	10
	考える	100	70	70	50	80		0		0	0	0		0
	平均	100	92	88	78	77	20	3	7	0	3	10	0	12
10歳	食べる	100	100	100	100	80	60						0	0
	眠る	100	100	80	70	70		0	0		0		0	0
	骨がある	100	100	90	20	20	0			0		0	0	0
	心臓がある	100	100	90	90	90		0	0		0		0	10
	子を産む	100	100	90	90	80	10	20	10	0	0	0	0	0
	考える	100	90	90	50	70		10		0				0
	平均	100	98	90	70	68	23	8	3	0	0	0	0	2